

# 糖尿病血液透析患者に対する GLP-1 受容体作動薬 (GLP-RA) の有用性

医療法人衆和会 長崎腎病院

○船越哲 小峯麻耶 江藤りか 矢野未来 渡辺ゆかり 一ノ瀬浩 佐々木修 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司

## 【背景】

糖尿病患者においては、血液透析そのものにより血糖が変動し、心血管イベントの誘因となることが知られている。よってインスリン事故分筆脳を有する透析患者においては、血糖依存性にインスリン・グルカゴン等を調整するインクレチン (DPP-4 阻害薬・GLP-1RA) の有用性が期待される。

## 【目的】

糖尿病血液透析患者における GLP-RA の有用性を検討する。

## 【対象・方法】

強化インスリン療法 (持効型インスリン+各食前超速効型インスリン) を施行されている糖尿病血液透析患者 12 名において、1 日 3 回の超速効型インスリンをリラグルチド (GLP-1RA) 1 日 1 回に置き換え、血糖変動の変化を持続的皮下グルコース測定 (CGM) の効果を評価した。

## 【結果】

CGM で測定した平均血糖変動幅は、強化インスリン療法では非透析日  $108 \pm 28.5$  mg/dL・透析日  $133 \pm 32.9$  mg/dL、一方持効型インスリン+リラグルチドに切り替え後はそれぞれ  $66 \pm 20.3$  mg/dL・ $75 \pm 26.1$  mg/dL と、有意に血糖変動の減少がみられた。

## 【考案】

持効型インスリン+リラグルチドによる治療は、強化インスリン療法に比べ透析患者の血糖変動を抑制することが示唆された。